

2023年度 活動報告書



一般社団法人 福島県精神保健福祉協会
ふくしま子どもの心のケアセンター

◇目次

センターについて	1
I 乳幼児の発達支援	3
(1) 震災後の発達の気になる子どもとその保護者への支援	
(2) 地域の母子保健体制整備に関連するサポート	
II 家族支援	7
(1) 保護者支援プログラム	
(2) ままカフェ	
(3) 県外話会・交流会	
(4) 山形市等への委託事業	
III 学校支援	13
(1) 心の健康相談会	
(2) 予防的心理教育プログラム「こころの授業」研修会	
(3) 学校巡回相談	
(4) 被災地の児童・生徒の精神衛生に関する調査（心の健康アンケート）	
IV 地域支援	19
(1) 地域巡回相談	
(2) 要保護児童対策地域協議会	
(3) 関係機関との連携	
(4) ふくしま心のケアセンターとの連携	
(5) その他の地域支援	
V 支援者支援	21
(1) 主催研修会	
(2) 他機関研修会への講師派遣	

◇リーフレット・チラシ等

▷ センターについて

(1) 概要

ふくしま子どもの心のケアセンター（以下、当センター）は福島県より事業委託を受けた一般社団法人 福島県精神保健福祉協会が設置・運営する機関です。福島学院大学、福島県立医科大学と連携しながら、東日本大震災後の福島の子どもたちへの支援活動を行うことを目的として、2021年4月に開設しました。

当センターは総合的な子どもの心のケア対策として、さまざまな子どもの問題への支援や、子どもに関わる支援者の人材育成などを行っています。

活動は5つのカテゴリーに分けて実施しており、本報告書では下記のカテゴリーにそって、詳細を報告します。

I 乳幼児の発達支援

浜通りを中心に、震災後の避難等の影響により支援を必要とする親子について、地域と連携し、医師及び心理士や精神保健福祉士等が早期の発見と支援をサポートします。

II 家族支援

ペアレント・プログラム等の保護者支援に関するプログラムを実施希望する事業所への講師派遣協力を行います。また、保護者向けのグループや講演会などの協力も行います。

III 学校支援

避難に該当した地区を対象に、医師及び心理士や精神保健福祉士等が学校と連携して支援を行います。また、県内の教職員等を対象に、メンタルヘルス問題に関する予防的心理教育プログラム（こころの授業）の養成講座や、学校へ訪問してのコンサルテーション等を実施します。

IV 地域支援

県内全域を対象に、ふくしま心のケアセンターや地域の支援機関と連携しながら、必要に応じて医療支援や会議等への参加を行います。

V 支援者支援

子ども支援に関する研修会を主催し、支援者への支援を行います。その他、学校や事業所が企画する研修会への講師派遣を行います。

▷センター名簿

①職員一覧

職 名	氏 名	雇用区分	職 種
所長	矢部 博興 (R5.4.1-11.30) 星野 仁彦 (R5.12.1-R6.3.31)	非常勤	医師
副所長（総務担当）	本田 邦之	常勤	事務
副所長（調査担当）	鈴木 勝昭	非常勤	医師
副所長（業務担当）	安部 郁子	非常勤	公認心理師
副所長（支援担当）	増子 博文	非常勤	医師
副所長（企画担当）	板垣 俊太郎	非常勤	医師
副所長（広報担当）	松本 貴智	非常勤	公認心理師
主任事務員	平山 真実	常勤	事務
主任専門員	川島 慶子	常勤	公認心理師
主任専門員	本田 智春	常勤	精神保健福祉士
専門員	山崎 鞠	常勤	公認心理師
専門員	能渡 綾菜	常勤	公認心理師

②顧問一覧（氏名 50 音順）

所 属	氏 名	職 名
福島県立ふくしま医療センターこころの杜	井上 祐紀	副院長
福島学院大学大学	内山 登紀夫	副学長
福島学院大学大学院心理学研究科	佐藤 佑貴	教授
公益財団法人星総合病院 精神科	本間 博彰	部長
環境省大臣官房環境保健部	本間 稔宏	主査
公益財団法人磐城済世会 舞子浜病院	本田 教一	院長
東京医科大学精神医学分野	榊屋 二郎	准教授
国立大学愛知教育大学心理講座	増山 晃大	講師

▶ I 乳幼児の発達支援

(1) 震災後の発達の気になる子どもとその保護者への支援

<事業概要>

- ①相談会：原発避難の影響を受けた地域における親子のメンタルヘルスに関する診察及び検査を実施し、地域の支援者と連携して支援を行いました。医師（児童精神科医）、心理士、精神保健福祉士等の専門職が現地の支援機関に赴き実施しました。
- ②コンサルテーション：原発避難の影響を受けた地域のこども園等からの要請を受け、子どもの実態把握を行い、日々の保育や各子どもの発達に関する助言指導を行いました。

<医師派遣一覧及び相談会対象児童数>

No.	日付	市町村（会場）	内容	担当医	参加者数		
					対象児童	保護者	地域の支援者
1	5/11	富岡町（富岡町にこここども園）	コンサルテーション	内山先生	19	-	17
2	5/18	浪江町（ふれあい交流センター）	相談会	内山先生	2	2	4
3	6/1	広野町（広野町保健センター）	相談会	内山先生	6	3	7
4	6/15	葛尾村（葛尾村役場）	相談会	内山先生	1	2	1
5	7/6	檜葉町（おおぞらこども園）	相談会	内山先生	2	2	11
6	8/2	双葉町（双葉町役場いわき支所）	相談会	内山先生	1	1	2
7	8/3	広野町（広野町保健センター）	相談会	内山先生	2	3	12
8	9/7	富岡町（富岡町保健センター）	相談会	内山先生	2	2	17
9	9/14	大熊町（大熊町役場いわき出張所）	相談会	榊屋先生	2	4	2
10	10/12	檜葉町（おおぞらこども園）	相談会	内山先生	2	2	11
11	11/2	広野町（広野こども園ひろばーく）	コンサルテーション	内山先生	16	-	9
12	11/30	浪江町（ふれあい交流センター）	相談会	内山先生	2	2	6
13	12/7	双葉町（双葉町役場いわき支所）	相談会	内山先生	1	2	1
14	12/14	葛尾町（葛尾村役場）	相談会	榊屋先生	※未実施		
15	1/11	檜葉町（おおぞらこども園）	コンサルテーション	内山先生	34	-	16
16	2/1	富岡町（富岡町保健センター）	相談会	内山先生	1	1	10
17	2/15	大熊町（大熊町役場いわき出張所）	相談会	榊屋先生	2	3	2

① 相談会

(目的)

東日本大震災後の原発事故による避難の影響で社会資源の不足及び母子保健事業の復旧途中である地域を対象として、子どもの発達支援をサポートすることを目的とし、児童精神科医師の派遣を行います。医師派遣の際には、当センターの心理職と相談員が同行します。事業の開催については市町村担当者を中心として会場準備等を行います。

本相談会は、子どもの検査や診断を目的とするものではなく、子どもの毎日の生活がより快適になることや親子の関わりがより円滑なものになるよう、どのような支援が必要かを保護者及び地域支援者が検討し共有することを目的とします。

(対象)

ケースの対象は、乳幼児健診等で発達の偏りや遅れなどが心配される子どもであり、保護者の本相談会の理解と同意の上、参加に至ります。地域によっては、学齢期の子どもが対象児として参加することもあります。

(参加者)

保護者の同意の上、こども園や学校の担任や主任先生が相談会や打合せに同席されることもあります。

(流れ)

例) 対象 4 歳男児の場合。対象児は、避難先の 1 歳半健診で言葉の遅れが指摘され経過観察となりました。避難先の担当保健師から避難元町に健診後の申し送りがありました。その後、帰還して 3 歳児健診を受診しました。健診の問診時に母親から気持ちの切り替えの難しさやかんしゃくの対応が大変であるとの相談がありました。聴力に問題はみられなかったが、会話は成立しにくいところがあり、経過観察となりました。翌年 4 月からは、こども園入園となり、行事の参加の難しさやお友達とのトラブルが重なったことで、本相談会の利用について、園や担当保健師、その他地域支援者の間で検討されました。担当保健師が保護者に電話連絡し、現在の本児の日常生活の様子などを確認すると、保護者も困り感があることがわかり当相談会を案内し、現在の生活の困り感を相談することを勧めました。

その後、保健師が相談会の参加の有無を再度確認するため家庭訪問をしたところ、医師に相談することについて、母親は診断が出るのではないかと不安や心配がある様子でした。担当保健師は、検査や診断の目的について、本人の得意と不得意、発達の特性を知り本人にあった支援を行うために必要であることなどを説明しました。父親と相談して再度連絡することとなり、数日後、相談会利用希望と当日は両親で参加する旨、連絡がありました。

事前準備；2 週間前まで

相談会の参加について保護者の同意を得ます。ケース概要（担当保健師）や保護者へのアンケート（保護者記入）、子どもの所属機関での様子（担任 等）に関する書類の準備を行います。

当 日

・事前カンファレンス；約 30 分

事前準備書類に加えて乳幼児健診時の所見なども含め、支援者全体でケース概要の確認を行います。相談支援事業所、基幹相談支援センター、発達障害者地域支援マネジャー、担任の先生などが参加する場合があります。必要に合わせて町村が調整を行います。

・相談；約 2 時間

医師が保護者の面接を行います。担当保健師と当センター専門員（ワーカー）が同席します。医師の指示の下、必要に合わせて当センター専門員（心理職）が対象児への検査等を実施します。

・事後カンファレンス；約 30 分

相談会の結果をもとに、地域の支援者と支援方針を検討します。

・結果説明；約 30 分

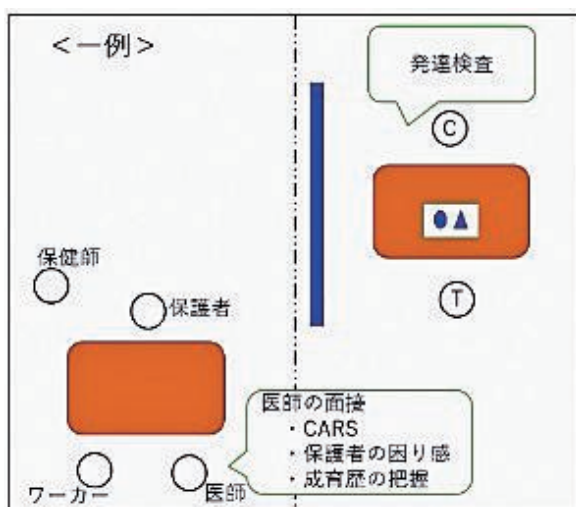
検査結果から得られた本児の発達の特性及び支援方法や暫定診断などについて医師と心理士が保護者に説明を行います。また、保護者の同意の下、担任の先生が同席し支援方法に関する情報を共有するとともに日々の関わりで疑問に感じている点を相談することもあります。

事後対応；約 2 か月後

検査結果を書面にまとめた心理所見を町村に郵送し、担当保健師が保護者と面接しながら相談会の結果や支援方針について確認します。療育の利用や医療機関の受診などにつながることもあります。

ケース対応については、「相談会につながる前の支援」と「相談会後の地域につなぐ支援」が重要です。地域の支援者の役割が非常に大きいです。

（会場；イメージ）



② コンサルテーション

(目的・対象)

東日本大震災後の原発事故により療育機関などの福祉施設の復旧が十分ではない地域のこども園を対象とし、発達の偏りや遅れのある子どもを含むクラスの運営や子どもへの支援に関して担任の先生等に助言を行います。

(流れ)

事前準備

クラス単位の申し込みとします。クラスの名簿一覧と相談内容を申込書に記入いただき、対象児が年少児から年長児の場合には、申し込みのあったクラス全員に対する『保育・指導要録のための発達評価シート（TASP）』を実施します（担任記入）。

当日

相談支援事業所、基幹相談支援センター、発達障害者地域支援マネジャー、担任の先生などが参加する場合があります。必要に合わせて町村が調整を行います。

- ・事前カンファレンス；約 20 分
- ・行動観察；約 1 時間
- ・事後カンファレンス；30 分
- ・全体カンファレンス；約 1 時間半

担任の先生に対して、実際の子どもの様子を踏まえ、質問事項に回答すると共に、参加者全体で支援について検討を行います。

(2) 地域の母子保健体制整備に関連するサポート

① 事業概要

市町村等が実施する乳幼児健診や相談会等において、被災した乳幼児及びその家族等への心の相談を行う場合に、臨床心理士等の専門職を派遣し支援します。本事業は「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」に業務委託し実施しました。

② 実績（2024 年 2 月末時点）

派遣事業名	回数	派遣人数
1.乳幼児健診への派遣（被災地域への専門職派遣事業）	308 回	384 名
2.運動遊び教室事業への派遣	31 回	82 名
3.リフレッシュママクラス事業への派遣	10 回	20 名
4.心の健康グループミーティング事業への派遣	7 回	13 名

※回数、派遣人数は全て延べ

▶ II 家族支援

(1) 保護者支援プログラム

① 事業概要

児童発達支援、放課後等デイサービス等の子ども支援に関わる施設と連携のもと、県内で子育てをすることへの悩みや子どもの発達に不安を抱える保護者等を対象に保護者支援プログラムとして、今年度はペアレント・プログラムについての講師派遣協力を行いました。

② ペアレント・プログラムとは？

ペアレント・プログラム（以下、ペアプロ）は、応用行動分析に基づいたプログラムです。子どもや自分自身について「行動」で把握し、良い行動を具体的にほめることを行います。また、母親の子どもへの見方を変えるという認知の変容を重要視します。「障害」という言葉を使用しないこともあり、子育て支援に広く活用が可能です。

実施は1クール6回と終了後3カ月程度後に行われるフォローアップ回の全7回によって構成され、10名程度を目安とした保護者がペアでの話し合いなどに取り組みます。

③ 2023年度の実績

今年度の派遣実績は9か所（県北、県中3か所、県南、会津2か所、相双、いわき）であり、それぞれ1クールの実施でした。参加者数（参加申し込みをして、1クール中に1度以上参加した人数）を図2-1に示します。

図には、「保護者」と「支援者」の実数を示しているが、これはペアプロが保護者支援の場であると同時に、子ども支援に関わる支援者も参加することで、ペアプロのポイントを理解し、日々の支援のための研鑽の場とする目的も兼ねているためです。

全か所を合計すると、ペアプロの参加者は保護者64名、支援者48名でした。

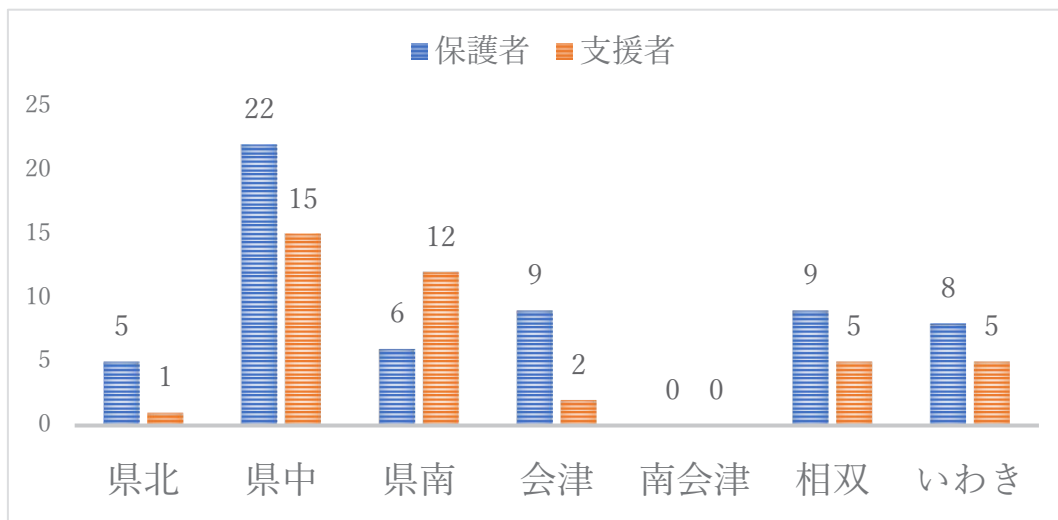


図2-1 ペアプロの地区別参加者数（実数）

④ 参加者の感想（一部を抜粋）

- ・子どものいいところをたくさんみつけることができました。6割できていればOKということを知れた事で、すごく気持ちが楽になりました。先生やお母さん達と話をできた事もとても良かったです。ペアプロで学んだことを生かして、楽しい子育てをしていきたいと思います。
- ・子どもとの関わり方を勉強したくて参加しました。プログラムを受けていくうちに、そういえばこういうことができていたなとか、うまくいかなかった時、そんなに怒ることではないかな…など、ワンクッションおくことができるようになりました。自分のことも見つめなおすことができました。
- ・少しでもできたことはほめる！！60～70%出来ていれば良いと教えて頂いて、気持ちに少し余裕ができました。
- ・自分の子どものいいところ・努力しているところなど、文字にしてみることで気づかされる部分が多々ありました。困っている部分が多いとは思いましたが、先生方とすすめていくうちに、考え方、見方を変えるだけで、いいところ・努力しているところに変えられ、気持ちが楽になったと同時に頑張れているんだなと気づかされました。
- ・子どもの困ったところだけに着目して叱るのではなく、本人なりにその中でも頑張ろうとしているところを見つけ、たくさんほめていきたいと思いました。今しかできない子育てを楽しみたいと思いました！
- ・漠然としていたものが、文字に表すことで、とても理解しやすくなりました。

(2) ままカフェ

① 事業概要

東日本大震災で被災した県内の親子の集いの場として「ママカフェ」を各地域で定期的に開催し、子育て支援を行いました。母親の仲間づくりや子どもの支援ニーズ把握等の場としての役割を担いました。本事業は「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」に業務委託し実施しています。

② 実績（2024年2月末時点）

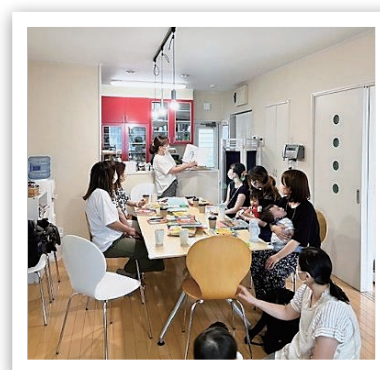
地域	回数	参加者	
		母親	初参加
ママカフェ@ふくしま (会場：福島県青少年会館)	8回	20名	8名
ママカフェ@こおりやま (会場：NPO 法人子育て支援コミュニティ プチママン)	9回	34名	17名
ママカフェ@けんなん (会場：マイタウンしらかわ、石川町モトガッコ、浅川町保健センター)	11回	52名	26名
ママカフェ@いわき (会場：Wendy いわき)	5回	21名	14名
ママカフェ@みなみそうま (会場：原町保健センター、小高交流センター)	10回	25名	9名
ママカフェ@ふたばぐん (会場：浪江町幾世橋防災コミュニティセンター、富岡町総合福祉センター、みんなの交流会ならは CANvas)	9回	36名	11名
ママカフェ@二本松 (会場：福島県男女共生センター)	6回	20名	6名
合計	58回	208名	91名

③ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子



- ・ママ同士でたくさん話せて元気になりました。ありがとうございました。（南相馬市）
- ・初めて参加しましたが雰囲気も良く子どもたちも順応していたのでリフレッシュになった。（郡山市）
- ・手作りおもちゃがたくさんあって子どもが楽しそうに遊んでいたので作って見ようと思った。ママ達と触れ合えて良い機会だった。（浅川町）

- ・久しぶりに家族以外の大人の人と話すことができて楽しかった。（二本松市）
- ・防災について地域の知識がなかったので情報が得られてよかった。備蓄の試食ができて、家でも夫と試してみようと思った。（いわき市）
- ・妊娠中のため体調を気遣っていただき大変ありがたかった。ママトーク盛り上がり楽しかった（双葉郡）
- ・スタッフの方が優しく相談に乗ってくださり嬉しかった（福島市）



（3）県外話会・交流会

① 事業概要

東日本大震災で被災し、県外に避難し子育てをしている人を対象に、県外での子育てについての思いや悩みなどを共有する集いの場として県外で話会・交流会を開催しました。また、連携団体と共に、親子が避難先でも孤立しないよう、相談を受けたり情報提供を行ったりしました。本事業は「特定非営利活動法人ビーンズふくしま」に業務委託し実施しています。

② 実績

1. 県外交流会（2024年2月末時点）

地域	実施回数	参加人数 (親子計)
山形県：NPO法人やまがた育児サークルランド	1回	3名
山形県：山形市避難者交流支援センター	1回	1名
宮城県：一般社団法人マザー・ウイング*	11回	151名
東京都：NPO法人こどもプロジェクト	9回	55名
埼玉県：ここカフェ@川越	12回	138名
その他団体への協力	3回	34名

*再委託団体

2. 会議等への参加・協力

参加回数：7回

対象者：204名

③ 参加者の感想（一部を抜粋）と実施の様子

- ・福島情報を詳しく聞く機会がないのでこのような場はありがたい（東京都）
- ・能登地震があり今度は自分たちが避難してきた人たちの役に立ちたい（東京都）
- ・福島の親が高齢になった。介護が必要な時は帰還を考えている（埼玉県）
- ・日々の生活に追われている中、交流会に行くとほんとに安心できる（埼玉県）



- ・皆さんが福島県出身なので安心して話すことができる。毎月この会を楽しみに育児を頑張っている（仙台市）
- ・子どもを見ていてもらえるのでママさんたちとお話できてリフレッシュできた（仙台市）
- ・来年子どもの高校受験を機に帰還予定。受験の情報や帰還する地域の様子が知れて良かった（山形市）

(4) 山形市等への委託事業

① 事業概要

山形県に避難している被災児童及び保護者を支援するため、山形市及び yama_colon labo に支援業務を委託しました。

山形市では、避難者交流支援センターを設置し、専門スタッフによる相談支援や、児童及び保護者間の交流を図りました。

また、yama_colon labo は、アロマテラピー等の自然療法を用いたセルフケアや地域文化を学習する講習会を開催し、心身のリフレッシュを図るとともに、地域の人たちとの交流を行いました。

② 実績

- i 山形市避難者親子交流事業（山形市委託）
交流会等を毎週開催し、193 名参加（2 月末現在）。
- ii 山形県への避難家族を対象とするストレスケア事業（yama_colon labo 委託）
8 月から講習会を 7 回開催し、児童及び保護者は 29 名参加。

③ 事業実施の様子



III 学校支援

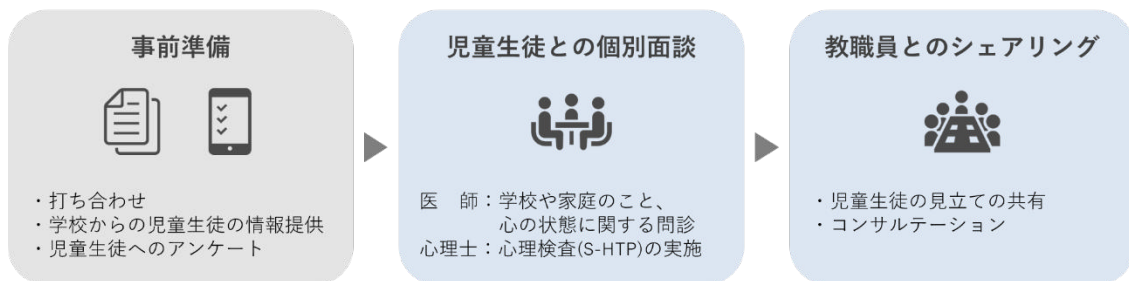
(1) 心の健康相談会

① 事業概要

原発事故の原発避難の影響を受けた地域に所在する学校を対象として、在籍する児童生徒への支援を行いました。

児童生徒に関する学校からの情報や、心の健康アンケートで得られた結果をふまえながら、医師（児童精神科医）と心理士が児童生徒との個別の面談を実施しました。その中で語られた児童生徒が感じている不安や心配に関して対処法などの助言を行うとともに、学校と情報を共有して児童生徒支援の充実を図りました。

心の健康相談会 当日



② 実績

該当校での面談実施概要

校種	児童生徒数									実施 日数	スタッフ		
	小学校						中学校				医師	心理士	精神保健 福祉士
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年				
A小学校	7名	4名	8名	4名	9名	4名				4日	8名	9名	4名
B小学校	8名		6名		5名					2日	9名	11名	2名
C中学校							9名	2名	4名	3日	3名	6名	3名
D中学校							1名	5名		1日	2名	5名	1名

■ は悉皆実施の学年

2023年度の心の健康相談会は4校で実施され、計10日開催されました。当日派遣されたスタッフの延べ人数は、医師22名、心理士31名、精神保健福祉士10名でした。

初めて心の健康相談会を行う学校では全児童生徒を対象に、昨年度も行った学校では特定の学年や転校生を対象に面談を行いました。

③ 実施時の様子

当日は、各ブースに児童生徒を振り分け、医師と心理士がペアになって面談にあたりました。面談実施中の学校側との調整は、主に精神保健福祉士が行いました。

スケジュールの例

	ブース 1 E 医師・F 心理士	ブース 2 G 医師・H 心理士
1 校時	会場設営、打ち合わせ	
2 校時	1 年女子 I	1 年男子 J
3 校時	1 年女子 K	1 年女子 L
4 校時	1 年男子 M	1 年女子 N
5 校時	4 年男子 O	4 年女子 P
6 校時	4 年男子 Q	4 年女子 R
放課後	シェアリング	
	1 年担任→4 年担任	4 年担任→1 年担任

児童生徒との面接では、学習や友人関係のこと、将来に対する不安などが語られました。面談後のシェアリングの時間では、医師と心理士の各ペアより、担当した児童生徒の見立てを学校と共有しました。共有の際、各学年の担任の先生や、管理職の先生から、児童生徒の様子や関わり方について具体的な質問もあげられました。教職員と医師、心理士、精神保健福祉士といった専門職が協力し合いながら、避難地区該当学校の児童生徒の心配事や対処法を共有する機会となりました。

(2) 予防的心理教育プログラム：「こころの授業」研修会

① 事業概要

昨年度まで当センタースタッフが学校に訪問して実施していた、予防的心理教育プログラム（以下、こころの授業）について、より多くの学校で実施いただくことを目的に、教職員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどを対象とした研修会を行いました。

② 実績

参加者：いわき会場 29 名、二本松会場 36 名、会津会場 13 名

テーマ：「こころの授業 Unit. 1 自己肯定感を高める、気持ちの切り替え方法を学ぶ」

研修会当日の流れ

10:00～10:05	開会式・オリエンテーション
10:05～12:30	Unit. 1 の目的・内容・ポイントの講義 講師による授業実演
12:30～14:00	昼食休憩・グループ練習
14:00～15:50	デモンストレーション（授業のシナリオをもとに実施）
15:50～16:00	修了式・プログラム実施に関するお願い

③ 研修会の様子



参加者の感想

- ・ 人との比較ではない当たり前にできていることを自分のいいところとする基準の獲得が大切なことがよくわかりました。
- ・ 講義そしてグループ練習、デモンストレーションがあり、実際に使うことのできる手ごたえを感じることができました。

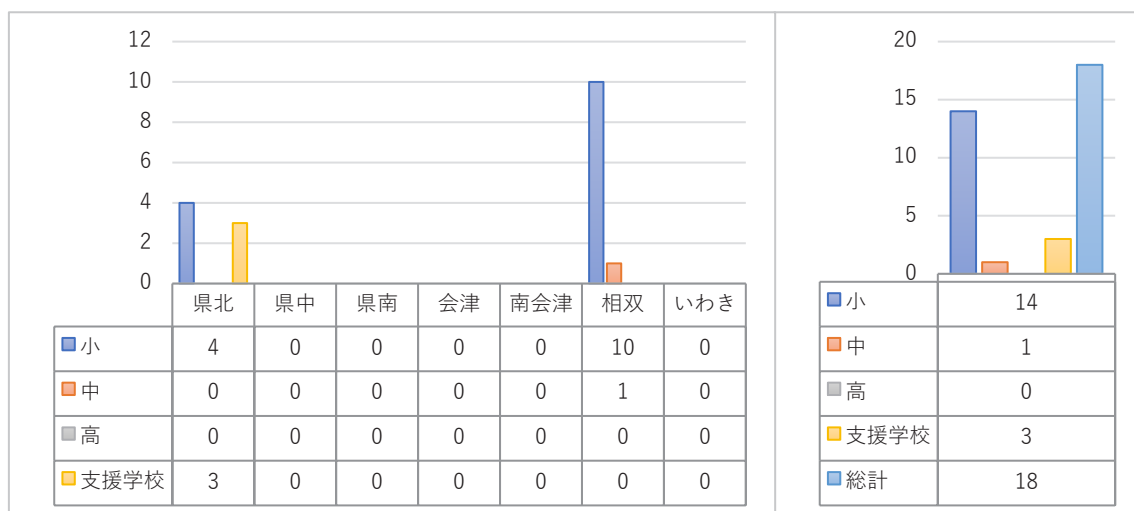
(3) 学校巡回相談

① 事業概要

申し込みがあった県内の学校に医師、心理士、精神保健福祉士が訪問し、対象児童生徒やその保護者との面談、授業観察、心理アセスメント（心理検査）等を行いました。また、必要な支援について、教職員とのコンサルテーションを実施しました。

② 実績

訪問回数（延べ）



2023 年度は小学校に 14 回、中学校に 1 回、高等学校に 0 回、支援学校に 3 回、合計で 18 回（全て延べ回数）、巡回相談を実施しました。

③ 学校巡回相談の様子

2023 年度は原発避難の影響を受けた地域の学校も含めて、医師、心理士、精神保健福祉士がチームとなって訪問する学校もありました。

避難該当地域にある学校での巡回相談では、帰還後、気になる児童生徒の行動観察や、児童生徒との面談、学校の先生方やスクールソーシャルワーカーとの情報共有、およびコンサルテーションが主な内容となり、ケースによっては児童生徒の保護者との面談も行いました。

一例をあげれば、授業中に落ち着かないような行動が見られる子どもへの関わり方に悩んでいる教員や保護者に対して、学校生活の状況と巡回相談での見立ての共有を行い、医療機関につながる必要性や普段の関わり方などについて検討しました。また、心の健康相談会のアフターフォローとして、心の健康相談会で面談を行った児童生徒の経過観察やコンサルテーションを行うケースもありました。

(4) 被災地の児童・生徒の精神衛生に関する調査（心の健康アンケート）

① 事業概要

福島県からの委託を受け、相双教育事務所の協力のもと、被災による児童生徒への教育的・臨床的支援を目的とした心の健康アンケートを実施しました。対象は、相双教育事務所管内の小中学校、義務教育学校に在籍する小学3年生から中学3年生としました。

実施の際には、各学校に配布されているタブレットを活用し、QRコードを読み取り Web上のアンケートフォームによって回答を得る形式としました。

アンケートの項目

- ① 心の元気さ（例：楽しみにしていることがたくさんある）
- ② やさしさ（例：私は、年下の子どもたちに対してやさしくしている）
- ③ イライラ（例：たたかれたり、けられたりしたら必ずやり返す）
- ④ 生活習慣（起床・睡眠時間、遊びについての質問）

② 実績

アンケートを実施した学校数と児童生徒数

種類	校数
小学校	31
中学校	17
義務教育学校	2
合計	50

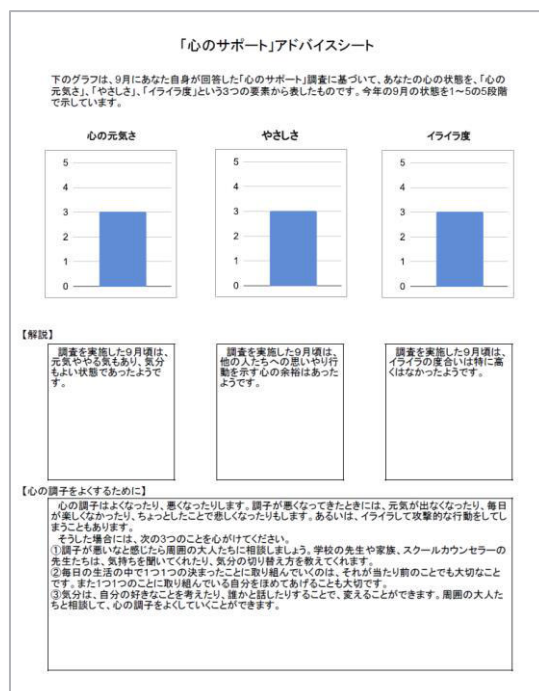
種類	学年	人数
小学校	3年生	696
	4年生	812
	5年生	709
	6年生	792
中学校	1年生	741
	2年生	758
	3年生	715
	合計	2,266
義務教育学校	3年生	18
	4年生	27
	5年生	12
	6年生	16
	7年生	18
	8年生	11
	9年生	13
合計		5,338

③ 結果

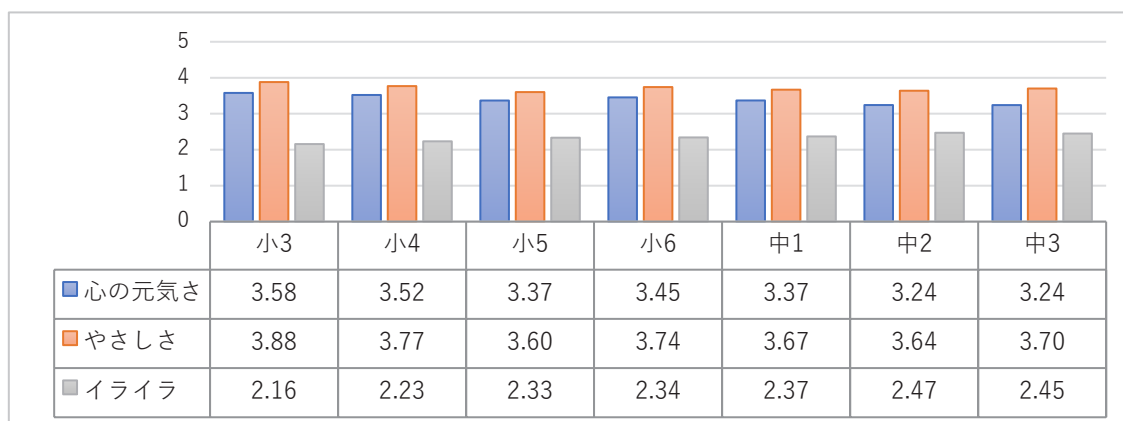
アンケートの結果は、『心のサポートアドバイスシート』という個票で学校に返却しました。

教育相談やカウンセリング等の場で、児童生徒の心の健康について相談する際の資料としたり、学校を通して保護者の皆様に個票を返却することで活用いただきました。また、昨年度と今年度のアンケート結果の個人の変化を比較できるよう、『アンケート結果比較ツール』（Excel）を各学校に配布しました。

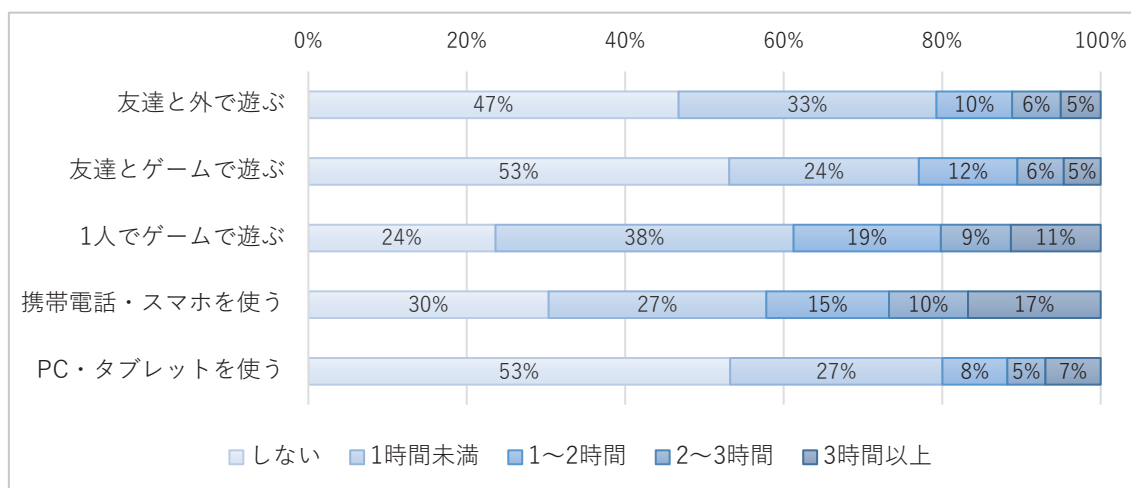
心の健康相談会や学校巡回相談においても、アンケート結果を活用し、面談やコンサルテーションを行いました。



学年別平均得点の結果



生活習慣（平日の遊びに関する過ごし方）の結果



▶ IV 地域支援

(1) 地域巡回相談

① 事業概要

県内の子どもに関わる施設と連携し、行動観察やコンサルテーション、保護者との面接などを通して地域での巡回相談を実施しました。(※学校に関する巡回相談は「III 学校支援」を参照)

② 実績

- ・幼稚園・保育所等への巡回相談：4回
- ・行政相談会への協力：11回
- ・乳幼児健診での相談業務協力：2回
- ・福祉領域での相談業務協力：1回

③ 実施の様子

福島県沿岸部(相双)の保育所等への巡回相談会の場合、年少児から年長児までの子どもについて市の健診情報と園で気になる子どもの情報を事前に資料として確認した上で、園内にて行動観察を行いました。その結果を踏まえ、担任及び園長・主任等に、各対象として挙げられた子どもへの対応の工夫や支援等について助言しました。

主に発達の偏りや遅れのある子どもが多いが、肢体不自由、染色体異常など、障害種は多岐に渡ることもあります。また、養育に係る問題を抱える家庭についての相談もありました。

支援方針を検討するにあたり、何をどのようにアセスメントするか、子どもが安全で快適に生活することが出来ることが目的となる視点等、教材の工夫や教室のレイアウト、集団活動における配慮など、各子どもに合わせて支援方針を検討しました。

(2) 要保護児童対策地域協議会

① 事業概要

震災後に虐待件数が増加している現状を踏まえ、県内の要保護児童対策地域協議会からの依頼を受けて協議会への参加等の協力を行いました。

② 実績

参加回数：2回

(3) 関係機関との連携

① 事業概要

県内の支援のためのネットワークを構築するため、福島復興支援に関わる情報交換会や会議等への参加を行いました。

② 実績

- ・子どもの心のサポートチーム協議会：2回
- ・双葉郡の子ども支援に関する事業の説明会：2回
- ・双葉地域地方自立支援協議会こども部会：2回
- ・切れ目のない支援体制整備事業：1回

(4) ふくしま心のケアセンターとの連携

① 事業概要

ふくしま心のケアセンターとの定期的なケース検討会等を開催し、県内の子どもと保護者への支援をスムーズに行うため連携を図りました。

② 実績

- ・月例会議への参加：4回
- ・こころと子どもの連携 WEB 相談：6回
- ・支援事例のカンファレンス：2回

(5) その他の地域支援

① 事業概要

県内の子ども支援に関わる支援者の希望のもと、個別スーパーバイズや、各種事業への参加・見学（子どもの発達支援への医師の陪席など）を通して、支援者の研鑽の機会を作りました。

② 実績

- ・ケースに関する個別 SV：7回
- ・ふたば教室：5回
- ・相双保健福祉事務所いわき出張所あそびの教室：1回
- ・福島大学大学院心理実践実習受入：6名
- ・福島学院大学公認心理師実習受入：11名

▶ V 支援者支援

(1) 主催研修会

子ども支援を行っている支援者に対し、スキルアップや指導者の育成を目的とした研修会を開催しました。

① 子どもの支援・多職種連携フォーラム

- ・参加者：10名
- ・会場：郡山市中央公民館

福島県の子どもに関わる医療・保健・福祉・教育等の支援者と、福島県の復興支援に関心のある大学生・大学院生を対象に、子どもに関わる多職種支援者の連携を図ることを目的として開催。「IQの高い自閉症生徒の対応」について事例検討を行いました。

【参加者の感想】

- ・少人数でたくさんの意見をお伺いすることができて、大変勉強になりました。小さい時の関わりの大切さを改めて考えさせられました。
- ・様々な分野の方と事例検討することができ、多角的にケースを考えることができ、とても勉強になった。学校の対応（支援）の実情を知ることができ、自分の所属機関で連携できることを考えてみたいと思った。

② 子どもの運動遊び支援者スキルアップ研修会

- ・参加者：19名
- ・会場：須賀川市民スポーツ会館

幼稚園教諭、保育士、子育て支援センター職員等を対象に、支援者のスキルアップを図ることを目的として開催。乳幼児期における「運動」「運動遊び」の必要性を学び、室内や親子で行う運動遊びの実技を通して学びました。一つひとつの動きの目的や動きを通して見えてくる発達状況の確認、運動が嫌いにならない言葉かけの工夫、コロナ禍における運動遊びでのソーシャルディスタンスなどすぐに実践できる内容で行いました。

【参加者の感想】

- ・今回、研修に参加し子どもの運動遊びを通して体力・体づくりだけでなくスキップや言葉学び、表現力、協調性など様々な学びに繋がっていることを実際身体を動かしながら楽しく学ぶことができました。今回の研修や親子スキップ体操の動画など参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・いろんな体の動かし方等、わかりとても勉強になりました。すぐに実践できることばかりだったので、園で早速試したいと思います。



③ CAP スペシャリスト養成講座（5日）

- ・基礎編参加者：24人
- ・実践編参加者：18人
- ・会場：いわき市社会福祉センター

子どもに関わる全てのおとなを対象に、暴力防止の専門家（CAP スペシャリスト）を養成することを目的として一般社団法人 J-CAPTA と共催で開催。児童虐待の歴史や関連法律、子どもの人権について学ぶとともに、地域で行われているワークショップの目的や流れを学ぶ。実践編では児童相談所の役割と機能についての講義を受け、地域で行われているワークショップの演習を行いました。

【参加者の感想】

- ・ワークショップは立ち位置から、どう見えるかだったり、セリフの語尾だったり、すごく考えられていることにびっくりというか、しっかり伝えることの大切さを考えさせられました。基礎知識もワークするために大切でしたし、トークタイムのところもすごく勉強になりました。
- ・トレーナーとしてCAPプログラムについて説明するところは、もっと学んでみたいと思いました。わかりやすく、説得力のある伝え方というのは本当に難しいことだと思いました。



④ 子どものための PFA 研修会

- ・参加者：19名
- ・会場：いわき市生涯学習プラザ

子どもの支援、子育て支援に携わっている方を対象に人材育成を目的として開催。公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン協力のもと、地震や事故などの危機的な出来事に直面した子どもたちのこころを傷つけずに対応するためのスキル（支援者が共通して身に付けておくべき心構えと対応）について学びました。

【参加者の感想】

- ・災害などで傷ついている子どもを支援したいと思う気持ちが先走りすぎて「支援したい自分を満たすための支援」になってしまっていないか、常に確認しながら、子どもの心に寄り添った支援をしていきたいと思いました。自分は自分の立場をわきまえ、支援をつないでいける所を増やして、継続的な支援が子どもに行き届くようにしていきたいと思います。
- ・今日の学んだことは、災害のみではなく、日常のふとした場面でも活用できるように考えられた。また、そのような子たちにどう接すればいいのか、ファーストコンタクトなどに不安を感じていたが、原則などを活用しつつ、トライアングレーションなどを利用するなど、対応の幅が広がった気がした。



⑤ セカンドステップ研修会

- ・参加者：9名
- ・会場：白河市産業プラザ人材育成センター

「子どもが加害者にならないためのプログラム」であるセカンドステップの基礎を学び、教材を用いて現場で実践できる研修生を養成することを目的として開催。ディスカッションや実際の教材を使用しながらロールプレイを行いました。

【参加者の感想】

- ・日頃、子供たちの問題場面を今日はたくさん取り上げてくださっていたので、大変勉強になりました。声かけ等、意識して接していきたいと思います。
- ・実践、演習形式なので、より理解が深まったり、気づきがあったり明日以降の仕事や日常生活に活かせるなと思いました。



⑥ 親と子どものふくふくトレーニングトレーナー養成研修（3日）

- ・参加者：6名
- ・会場：あいづ心理臨床センターCoduyu

行動療法の理論背景をもとに、子どもの問題行動を減らし、望ましい行動を効果的にしつけられるスキルを体得するプログラムを体験を通して学び、養育者や子ども支援に関わる仕事をしている支援者に伝えるトレーナーを養成することを目的として開催。各セッションについて、講義とロールプレイを通して最終日にはトレーナーとして模擬セッションを行いました。

【参加者の感想】

- ・講義やロールプレイなど分かりやすかったが、最後に行ったトレーナーの練習がとても勉強になった。自分がどこを理解できていないか知ることができ、他の参加者のやり方が見ることができてポイントにするところ等、重要なところ等再確認できた。全体を通してとても分かりやすい内容だった。
- ・実際にトレーナーとしてのロールプレイや講義の練習ができて良かった。行動分析を学べて、子の問題行動を整理しやすくなった。大人の面接の時も使えるので、活用していきたい。落ち着く方法、ほめる言葉、提案するもの等引き出しをたくさんもっていたいと思った。



⑦ 県外支援者研修会

・参加者：5名

県外避難者を支援している団体（ママカフェや親子サロン、相談会の開催等）との連携や、支援者のスキルアップを目的として研修会を開催。「災害時に発達の偏りのある子どもへのサポート」について当センターより報告し、その後支援団体との意見交換を行う。

※オンライン（zoom）で開催。

(2) 他機関研修会への講師派遣

他機関から、当センターに講演会・研修会の講師依頼があり下記の通り実施しました。

	年	月	日	主催	対象	担当	演題・内容
1	2023	4	6	福島県警察本部	警察官	安部	思春期ってなあに？
2	2023	4	18	基幹相談支援センター ふたば	支援者	川島	令和5年度双葉郡の子ども支援に関する事業の説明
3	2023	4	27	相馬地方基幹相談支援 センター拓	支援者	川島	自閉症の特性とその支援～応用行動分析 学を支援に活用する～
4	2023	5	9	南相馬市こども総合相 談室	支援者	川島	発達の凸凹や特性のあるお子さんの視点 に立った行動の理解
5	2023	5	30	南相馬市こども総合相 談室	支援者 保護者	川島	ペアレント・プログラム第2回
6	2023	6	2	相双教育事務所		川島	福島県沿岸部の乳幼児健診における子ど もの継続的变化について
7	2023	6	29	田村地方児童発達支援 センター	支援者	川島	療育スキルアップ講座ミニ講義/事例検 討会
8	2023	7	11	富岡町文化交流センタ ー	支援者 保護者	川島	ペアレント・プログラム第5回
9	2023	7	28	福島県立平支援学校	教職員	本田	子ども自身が良いところを見つけたり、 感情のコントロールをしたりするための 支援について
10	2023	8	2	いわき市総合教育セン ター	教職員	能渡	子どもの自己有用感を高める関わりにつ いて～I-SUSを活用して～
11	2023	9	1	猪苗代中学校	教職員	渡邊	レジリエンスを高める支援について
12	2023	9	15	磐城高校	生徒 教職員	佐藤 渡邊	ストレスマネジメントとセルフケア
13	2023	9	25	やまがた育児サークル ランド	支援者	安部 本田	子どものこころの発達～幼児期から思春 期・青年期へと～
14	2023	10	19	福島県福祉事業協会	支援者	川島 本田	療育スキルアップ講座
15	2023	11	8	基幹相談支援センター ふたば	支援者	川島	第二回双葉郡のこども支援に関する事業 の説明会
16	2023	11	9	国立障害者リハビリセ ンター	支援者	川島	発達障害者地域支援マネージャー研修会
17	2023	11	20	羽太小学校	教職員	本田	教職員のメンタルヘルス
18	2023	12	1	錦東小学校	教職員 保護者	能渡	子どもの関わり方のポイント～自己肯定 感に着目して～

19	2023	12	22	保原小学校	教職員	本田	子どもへの対応と教職員のメンタルヘルス
20	2024	1	15	なみえ創成中学校	教職員	鈴木	自閉症に関する研修会
21	2024	1	17	相双保健福祉事務所	支援者	川島 本田	発達障害の理解と支援

資 料

◇ふくしま子どもの心のケアセンター・リーフレット◇

◇研修会等チラシ◇

センター概要

「ふくしま子どもの心のケアセンター」は福島県より事業委託を受けた「一般社団法人 福島県精神保健福祉協会」が設置・運営する機関です。

福島学院大学、福島県立医科大学と連携しながら、東日本大震災後の福島の子どもたちへの支援活動を行うことを目的として、2021年4月に開設しました。

ふくしま子どもの心のケアセンターは総合的な子どもの心のケア対策として、さまざまな子どもの問題への支援や、子どもに関わる支援者の人材育成などを行います。



ふくしま子どもの心のケアセンター

住 所 : 〒960-8505
福島市本町2-10
(福島学院大学駅前キャンパス4階)
e-mail : info@f-kodomo-care.org
T E L : 024-524-0005
F A X : 024-524-0006

ホームページはこちら↓
<https://f-kodomo-care.org/>



※事業や研修会情報などをお知らせしています。

事業内容 ～5つの柱～

ふくしま子どもの心のケアセンター

< 乳幼児の発達支援 >

●事業内容

浜通りを中心に、震災後の避難等の影響により支援を必要とする親子について、地域と連携し、医師及び心理士が早期の発見と支援をサポートします。

- ・震災後の発達の気になる子どもとその保護者への支援
- ・地域の母子保健体制整備に関連するサポート

…など

< 家族支援 >

●事業内容

ペアレント・プログラム等の保護者支援に関するプログラムを実施希望する事業所への講師派遣協力を行います。

- ・ペアレント・プログラム
- ・親と子どものふくふくトレーニング
- ・ままカフェ（県内・県外）

…など

< 学校支援 >

●事業内容

県内各地で、予防的心理教育プログラム『こころの授業』の実施者養成研修会を行います。学校への巡回相談も実施しております。

- ・予防的心理教育プログラム『こころの授業』実施者養成研修会

- ・巡回相談

…など

< 地域支援 >

●事業内容

県内全域を対象に、ふくしま心のケアセンターや地域の支援機関と連携しながら、必要に応じて医療支援や会議等への参加を行います。

- ・医療支援（医療機関等への医師・心理士派遣）
- ・地域連携会議等への参加
- ・要保護児童対策地域協議会への協力
- ・ふくしま心のケアセンターと連携した支援

…など

< 支援者支援 >

●事業内容

子ども支援に関する研修会を主催し、支援者支援を行います。



< 主催研修会の例 >

- ・子どもの支援 多職種連携フォーラム
- ・災害時こころのケア支援力養成講座（サイコロジカル・ファースト・エイド）
- ・子どもの運動遊び指導者スキルアップ研修会
- ・セカンドステップ研修会
- ・親と子どものふくふくトレーニング指導者養成講座
- ・CAPスペシャリスト養成講座
- ・県外支援者研修会

…など

※その他、学校や事業所が企画する研修会への講師派遣を行います。

ふくしま

あそび場 マップ

東日本大震災を機に作られた「こころと体を育てる楽しい遊び」は

「親子で遊ぼう・ふくしまあそび場マップ」となって生まれ変わりました。福島県には親子で
遊べる場がたくさん！心と身体をはぐくむあそび場に、親子で出かけてみませんか？

詳しくは
こちら！



一般社団法人 福島県精神保健福祉協会
ふくしま子どもの心のケアセンター主催

「こころの授業」の研修会

【内容】 Unit1 : 自己肯定感を高める・気持ちの切り替え
小学生バージョン/中高生バージョン

日程

浜通り

7月29日(土)

いわき新舞子ハイツ

先着 20名

10:00～16:00

(いわき市平下高久南谷地16-4)

中通り

8月 9日(水)

福島県男女共生センター

先着 20名

10:00～16:00

(二本松市郭内一丁目169-1)

会 津

9月10日(日)

ピカリンホール

先着 20名

10:00～16:00

(会津若松市北会津町中荒井字諏訪前11)

対象:教職員(養護教諭、学級担任など)、SC、SSWなど、子ども支援に関わる方

* 3回とも同じ内容になります。お近くの会場でご参加ください。

「こころの授業」は...

震災直後から福島の子ども支援として、県内の小学校、中学校、高等学校で行われてきました。本研修では、進め方や実施のポイントなどを体験的に学び、参加した皆さまが学校などの場面で実施していただけるように講義のロールプレイも行います。心理教育に興味のある方はぜひご参加ください。

参加費

無料 !!

【お問合せ】

ふくしま子どもの心のケアセンター

福島市本町2-10福島学院大学駅前キャンパス4階 (担当: 本田)

TEL

024-524-0005

メール

info@f-kodomo-care.org

子どもの運動遊び 指導者スキルアップ研修会

ビガーボール

ビガーボールを使った運動遊びを行います。
ビガーボールはそのままお持ち帰りいただけます！

参加費
無料

この研修会は…

「運動」「運動遊び」のバリエーションを増やしませんか？

本研修はソーシャルディスタンスを保ちながら、乳幼児期における「運動」「運動遊び」の必要性を学び、室内や親子で行う運動遊びを実技を通して学びます。

コロナ禍における乳幼児の運動遊びの大切さを体験を通して見直してみましよう。

日時・場所

- ・7月15日(土)
9:30～11:30
- ・須賀川市民スポーツ会館

講師

水戸真由子先生
福島新体操クラブ代表

定員
30名

お申込みは裏面へ！
お問合せ

024-524-0005
(担当:本田 平日9:00～17:00)

*当日は上履き持参、動きやすい服装でお越しください。

子どもへの暴力防止の 知識とスキルを学ぶ基礎講座

子どもたちに
いじめや誘拐、虐待、性暴力などの
あらゆる暴力から
自分を守るためのプログラムを
小学校で実施する
子どもへの暴力防止の専門家を養成



キャップ CAPスペシャリスト養成講座 in いわき

日 時 基礎編 2023 年 11 月 3 日 (金)・4 日 (土)・5 日 (日) -計 24 時間-
(1 日目 10:00~18:00/2 日目 9:15~17:15/3 日目 9:15~17:15)

実践編 2023 年 12 月 2 日 (土)・3 日 (日) -計 16 時間-
(1 日目 10:00~18:00/2 日目 9:15~17:15)

場 所 いわき市社会福祉センター 大会議室
(福島県いわき市平字菱川町 1-3 / 0246-23-3320)

CAP とは、Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の略で、子どもたちがいじめ、痴漢、誘拐、虐待、性暴力といったさまざまな暴力から自分を守るための教育プログラムです。この講座は CAP プログラムを実践する暴力防止の専門家 (CAP スペシャリスト) を養成する講座です。

子どもへの虐待や暴力についての基礎的な知識やスキルを学べる講座ですので、どなたでもご参加できます。子どもに関わる全てのおとな (親、教師、保育士、保健師、電話相談員、カウンセラー、子ども会のリーダー、学童保育や子ども食堂のスタッフ、児童福祉施設・児童相談所のスタッフ、行政職員……) に受講していただき、CAP の理解者と実践者として、共に子どもの人権が尊重される社会を創る仲間になってください。

【対 象】福島県にお住まいで CAP に関心のあるすべてのおとな (18 歳以上) 【定 員】40 人

【講 師】J-CAPTA トレーナー 田中 明子・矢島 宏美

※J-CAPTA は CAP プログラムの使用に関する権限をもつ日本の CAP トレーニングセンターです。

【受講料】福島県の方は無料 *テキスト代 4,400 円

【申込み】受講申込書に必要事項を記入の上、メールまたは FAX でお送りください (申込締切: 10 月 23 日)
※先着順にて受付け、定員になり次第締切ります。10/3 より受講確定書をお送りします。

主催 ジェイ キャプタ 一般社団法人 J-CAPTA (Japan CAP Training & Action)

問い合わせ・申込み TEL 090-2876-9429/FAX 011-666-8517

総合インフォメーション j-capta@j-capta.org ホームページ <http://j-capta.org>

協力: CAP いわき (090-1432-6794)

※本事業は「一般社団法人福島県精神保健福祉協会ふくしま子どもの心のケアセンター」の委託により実施しています。

子どものための 心理的応急 処置研修

Psychological
First Aid for Children

参加無料
ADMISSION FREE

子どものための PFAとは

災害時などに、ストレスを抱えた子どもや親・養育者のこころを傷つけずに対応するためのスキルです。世界保健機関（WHO）などが作成したPFAマニュアルをもとに、セーブ・ザ・チルドレンが2013年に開発しました。子どもの認知発達段階の特性や年齢にあわせて、誰にでもできるこころの応急手当です。



2023年
11月11日(土)

10:00～17:00

会場：いわき市生涯学習プラザ 大会議室 2

住所：いわき市平一丁目1番地ティーワンビル

研修内容

10:00～12:00

- ・はじめに
- ・子どものためのPFAとは
- ・危機的状況下で子どもが示す反応

12:00～13:00

- ・お昼休憩

13:00～15:15

- ・PFAを必要とする子どもの見極め方とストレスを抱えている子どもとの最初のコンタクトの取り方
- ・コミュニケーションのポイント

15:15～17:00

- ・ロールプレイ
- ・まとめ

申し込み・問い合わせ

一般社団法人 福島県精神保健福祉協会
ふくしま子どもの心のケアセンター

TEL:024-524-0005（担当:本田）
FAX:024-524-0006

協力：公益財団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

「いじめをしない、させない子を育てる」

キレずに問題解決できる力を養う

セカンドステップ研修会



「セカンドステップ」プログラムは、米国ワシントン州にあるNPO法人Committee for Children (1979年設立)によって、「子どもが加害者にならないためのプログラム」として開発されました。「キレない子どもを育てよう」を合言葉に、子どもが幼児期に集団の中で社会的スキルを身につけ、さまざま場面で自分の感情を言葉で表現し、対人関係や問題を解決する能力と怒りや衝動をコントロールできるようレッスンが計画されています。本研修では、セカンドステップの基礎を学び、教材を用いて現場で実践できる研修生を養成します。

2023.6/11 (日) 10:00~17:30

場所

白河市産業サポート 人材育成センター
(白河市中田140)

料金

無料 (※入会金・年会費別)

対象

セカンドステップに興味のある
教師・保育士・幼稚園教諭・施設職員等

定員

15名程度(実践予定の方優先)

※研修会への参加はNPO法人日本こどものための委員会の活動会員への入会が必要となります。詳しくは裏面の活動会員入会申込みをご覧ください。

お問い合わせ／ふくしま子どもの心のケアセンター 担当：本田

Tel.024-524-0005 Fax.024-524-0006

Mail info@f-kodomo-care.org

〒960-8505 福島市本町2-10福島学院大学駅前キャンパス4階

親と子どものふくふくトレーニング トレーナー養成研修in会津

「親と子どものふくふくトレーニング」とは

行動療法の理論背景をもとに、子どもの問題行動を減らし、望ましい行動を効果的に身につけられるスキルを、経験的に体得するプログラムです。本研修は「親と子どものふくふくトレーニング」を養育者や子どもに関わる仕事をしている専門家に伝えるトレーナーを養成する講座です。



日時 令和5年11月18日(土) 10:00～17:30 (9:30～受付)
11月19日(日) 9:30～17:30
11月20日(月) 9:00～17:00 の3日間

会場 会津心理臨床センター Coduyu (会津若松市一箕町大字八幡墓料119 - 1)

対象 家庭支援を行っている方(子育て支援センター職員、児童相談所職員、保健師など)

受講料 無料

定員 10名

※3日間連続での受講をお願いいたします。

お申込みは裏面へ・お問い合わせ

一般社団法人福島県精神保健福祉協会 ふくしま子どもの心のケアセンター
福島市本町2番10号福島学院大学駅前キャンパス4階
TEL:024-524-0005 FAX:024-524-0006 担当:本田

子どもの支援・多職種連携フォーラム



子どもに関わる教育・医療・保健・福祉・行政等の皆様へ
多職種支援者の連携ついて事例を通して学びを深めませんか？
このフォーラムでは発達の偏りのある子どもの支援について事例検討会を行います！

日時

令和5年11月24日(金) 13:30～15:30
(受付13:00～)

会場

郡山市中央公民館 第一講義室
※駐車場は麓山地区立体駐車場をご利用願います。
(入庫～2時間:無料 2時間を超えた30分毎100円)

定員

30名(守秘をお約束いただける方)
※教育・医療・保健・福祉・行政等、子ども支援に携わる方

内容

「事例検討会」

事例報告者
星槎国際高等学校 郡山学習センター副センター長
西村 飛鳥 先生

SV: ふくしま子どもの心のケアセンター 副所長
星野 仁彦 先生
鈴木 勝昭 先生

【申し込み・お問い合わせ】

一般社団法人 福島県精神保健福祉協会 ふくしま子どもの心のケアセンター
福島市本町2-10福島学院大学駅前キャンパス4階

8/6(日)

10時30分～

@南陽市健康長寿センター

自然の香りでつくる

★アロマリードディフューザー

親子で楽しめます

合成なしの自然のアロマが
お部屋に広がります

好きな香りを、お部屋で、玄
関やトイレでも楽しめます



アロマリードディフューザー作り

日 時：8月6日(日) 10時30分～11時30分頃

場 所：南陽市健康長寿センター 2階創作研修室

参加費：無料

作る人：6歳以上

申込期限：7月31日(月)

キッズスペースあり。小さなお子さん連れも大歓迎です。

※東日本大震災の避難者の方は、参加費無料です。

2023山形県への避難家庭を対象としたストレスケア事業



講師：笹渕美香 yama_colon labo 代表
ナチュラルケアkamiko(山形市)主宰。
カウンセリングやリンパトリートメント施術の
傍ら、各所で、アロマやハーブのワークショッ
プや講座を開催。

お問合せ→



南陽市社会
福祉協議会

開催会場・主催

南陽市社会福祉協議会(2階会議室)

南陽市赤湯215-2 南陽市健康長寿センター内

主催：南陽市社会福祉協議会、yama_colon labo

お申込み/お問い合わせ

0238-43-5888 安達

(8:30～17:15、土日祝日除く)

一般社団法人福島県精神保健福祉協会

ふくしま子どもの心のケアセンター 2023 年度活動報告書

発行日：2024 年 3 月 31 日

所在地：〒960-8505 福島県福島市本町 2 番 10 号

(福島学院大学 福島駅前キャンパス 4 階)

HP：https://f-kodomo-care.org/

TEL：024-524-0005

FAX：024-524-0006

印刷所：株式会社阿部紙工



